



産経新聞

トランプ次期大統領は、米国の従来尊重してきた第二次世界大戦後の安全保障秩序と同盟国との紐帯にこだわらない。彼が権益の範囲を限定する。中東は近代史で初めて米

代に入る。米国の中東不関与の空白を埋めるのは、域外のロシアをひとまず除けば、イスラエル、サウジアラビア、トルコの4カ国である。トルコがシリアのクルド勢力伸長を前

イスラエルとサウジは、米国の同盟国でありながら、オバマ氏のイラン接近で共通の脅威を感し始めた。トルコは、ロシアにとつてのウクライナ問題を自らのクルド問題のようにレッドラインとして認める代わりに、

歴史の交差点

フジテレビ特任顧問 山内昌之



欧など大国の「監督者」を失うことになる。

アラブ国家の力を弱める戦略が功を奏し、エジプトの力の凋落は甚だしい。トランプ氏は、イラ

アサド政権の存続を是認するだろう。もちろんイスラエルは、トランプ氏の勝利をひとまず歓迎している。彼の女婿でユダヤ

が、米露中などの権力競合を利す用しながら台従連衡に走り、中東はますます混沌が広がる新時

に軍事介入に踏み切ったように、4カ国ともに死活的利益を是も非もなく守るだろう。イランは、今のところシリア

は中東政策に大きく関わるだろう。しかしトランプ氏は、中東

トランプ氏と中東4強国

つながるだろう。パレスチナ人の挫折感と絶望が拡大すれば、イスラエルの国内安定はもとより安全保障の障害にもなる。トランプ氏はサウジを意識して、「敵とカルテル」からの「完全な米国のエネルギー的独立」を主張したことがある。中東で重要な同盟国にして地域強国のイスラエル、サウジ、トルコは、イランの拡大を憂慮する点で共通の利益を帯びている。4年の在任中にトランプ次期大統領がトルコとサウジへの政策を変更すれば、イスラエルの反応やイランの行動計画にも大きな影響を及ぼすに違いない。(やまうち まさゆき)